



ひとりの患者さんのために、

多職種がそれぞれの専門性を発揮

神戸大学医学部附属病院

### チーム医療とは…

患者さんのために、同じゴールを目指して  
医療専門職者が連携・協働する

病院では、様々な職種のメディカルスタッフが働いています。例えば医師、看護師、理学療法士、臨床工学技士など。こうした異なる専門職者がチームを組み、一人の患者さんに対して、それぞれの専門知識・技術を発揮し、連携することを「チーム医療」と呼びます。患者さんのベッドサイドへ直接訪問し、患者さんにとって最適な治療やケアは何かをチームで検討し、患者さんを担当する看護師やスタッフへの知識や技術面のサポートを行う役割を担っています。

患者さんの最善を目標に  
チーム医療に取り組む

「呼吸ケアサポートチーム」は、呼吸管理中の患者さんの安全と、呼吸ケアの質向上を目的に活動しています。呼吸器疾患の認定看護師でもある私の役目として、呼吸ケアサポートチームの回診や、呼吸療法が必要な患者さんの転院調整、退院指導を行っています。

当院では重症呼吸不全の患者さんが多く入院されていますが、「住み慣れた家で過ごしたい」と考えられる患者さんはいっぱいいます。時には、患者さんやご家族の希望される目標が現実的ではないケースもあります。しかし、まずはその思い・希望に寄り添う姿勢を大切に、呼吸ケアサポートチームのメンバーを中心とした多職種と連携しながら、安全かつ実践可能なケアを提案できるよう努力しています。

患者さんやご家族の思いを共通目標に、それぞれの職種が専門性を発揮し連携することで、医療依存度の高い重症呼吸不全の患者さんも、自宅退院が可能となってきました。患者さんの「家に帰れて良かった、家族と一緒に過ごすことができて良かった」といった言葉や笑顔は、私が看護師を続けていく上での原動力の一つとなっています。

臨床の現場では難しい課題も多いで

#### Hospital Data

〒650-0017  
兵庫県神戸市中央区楠町 7-5-2  
TEL 078-382-6685(直) 看護部  
URL <https://www.hosp.kobe-u.ac.jp/>



#### Hospital Information

神戸大学医学部附属病院は、特定機能病院として、先進医療の提供を通じて医療の発展と社会に貢献する使命を担っています。看護部では、「患者中心の看護」をビジョンに掲げ、常に患者さんの最善を考え、倫理観をもって看護を提供することを目指しています。



呼吸管理中の患者さんの安全のため、医療機器が正しく取り扱われているのを確認したり、勉強会を開催しています

ですが、チームメンバーの力を借りながら今後もチャレンジする気持ちをもち続けていきたいと思っています。信頼できるメンバーに恵まれたことに感謝しています。

今後は地域の医療者とのつながりを強化すべく、WEBもうまく利用しながら情報交換の機会を増やしていけたらと思います。また、看護学生さんの若い力も借りながら、ピアサポート活動などで共同することができたら、チームの輪をどんどん広げていけるのではないかと考えています。





## 訪問看護 編

# 在宅療養に関わる多職者と連携して 生活を支える看護を实践

新潟西浦メディカルセンター病院  
にいがた訪問看護ステーション

### 訪問看護とは…

### 病気や障害を持っていても、地域やご自宅で その方らしく生きていくことを支える看護

訪問看護とは、病気や障害をもっている方が住みなれたご自宅や地域で、その方らしい療養生活が送れるように支援するサービスです。地域の訪問看護ステーションから看護師が生活する場所へ訪問し、在宅医療のお世話や担当医の指示に基づいた医療処置、病状の観察、薬の相談・指導など看護ケアを提供します。

### 医療と生活の両面から その方らしい暮らしを支える

看護師の働く場所といえは病院をイメージする方も多いかもしれませんが、しかし、超高齢化社会に伴って医療・福祉サービスの需要が高まり、病院だけでなく、在宅の場でも多くの看護師が活躍しています。

訪問看護とは在宅医療のひとつです。在宅療養生活の中でご本人やご家族だけでは不安がある場合や医療的処置を要する方を対象に、一人ひとりの生活に沿った看護を実施します。ご自宅へ訪問し、医師の指示に基づいた健康状態の確認や医療処置を行うことや、ケアマネジャー、薬剤師、リハビリ療法士、歯科医師など在宅療養に関わる多職種との連携がスムーズに行えるように調整役も努めています。

「自宅で暮らしたい」そんな願いに寄り添うことができた、あるご利用者さんの話です。その方は80代の男性で一人暮らし。脳梗塞の影響で片麻痺の障害を抱えていたため、周囲からは施設入所を勧められていました。しかし、ご本人は「猫の世話があるから自宅で生活したい」と強い希望を持っています。私たち訪問看護師は週1回の訪問を開始。健康チェックや内服の確認、さらに、デイサービスや訪問介護、その他社会資源を利用し、安心して生活できる環境を整

えることに奔走しました。笑顔でイキイキと暮らすご利用者さんの姿を見ると、その方が望む暮らしを支えることができた喜びを感じます。私たち訪問看護師は、ご利用者さんとご家族がどのような生活を望んでいるのかを確認し、その希望が叶えられるように、医療と生活の両面からサポートしています。今後も、ご利用者さんとご家族の生活の質の向上を目指し、その方らしい暮らしを支える訪問看護を追求していきます。



「男性は力があるから安心して介助してもらえると言葉の頂くと、男性看護師としてのやりがいを感じる」

#### Hospital Data

〒 953-0041  
新潟県新潟市西蒲区巻 4368  
TEL 0256-77-5215  
URL <https://www.jojinkai.com/niigata/>

#### Hospital Information

在宅で療養生活を送っている方が安心して過ごせるように、健康チェックを中心に生活のアドバイスとお手伝いをしています。24 時間体制で夜間・休日の緊急時にも対応。一人ひとりの望む療養生活を支えることが訪問看護師の大きなやりがいです。







災害時期に応じたニーズを的確に把握し

生活環境や心のケアも重要な任務

福島県立医科大学附属病院

災害医療・高度救命救急センター  
HCU・救急外来勤務  
坂本 俊一 さん  
日本 DMAT 隊員、BLS インストラクター  
PEARS インストラクター



災害に対する専門知識をはじめ、防災に関しても高い危機管理能力を身につけている DMAT 隊員。派遣要請を受けた際には迅速に対応できるように、常に備えています。

## 災害看護とは…

### 阪神大震災の教訓から確立された災害看護 災害時に重要な看護の力

地震などの「自然災害」、テロや大型交通事故などの「人為的災害」といった発災地域に赴き、被災者に必要な医療や看護を提供します。発生直後に活動する災害医療派遣チーム DMAT や、長期的に被災者の援助を行う日本看護協会の災害支援ナースなどが活躍しています。体、こころ、とりまく環境を包括的にケアできる看護師の能力は、災害現場や復興の大きな力となります。

### 東日本大震災を経験し、 DMAT 看護師を目指した

看護師として NICU に勤務して 2 年目の頃、東日本大震災を経験しました。大きく揺れる病棟で人工呼吸器や保育器を掴み、必死で赤ちゃんを守ろうとしたことは忘れられません。災害の恐怖を経験し、看護師として何か出来ることはないのかと模索していた時に災害派遣医療チーム DMAT の存在を知りました。それから、現在の部署である救命救急センターに異動して救急看護を学びながら災害看護で必要な知識やスキルを身につけ、念願だった DMAT 隊員になることができました。

初めての災害現場は 2016 年に発生した熊本地震。発災 1 週間後に現場に入り、避難所を巡回して、被災者の健康状態を確認しました。災害派遣といえば、瓦礫の中から傷病者を救出するようなイメージが強いかもしれませんが、しかし、実際には地元の保健師さんと一緒に被災者の健康状態の把握や避難生活での必要物品の把握など、行政と関わる仕事も多く存在します。災害時期に応じたニーズを的確に把握し被災者の生活環境や心のケアを行うことも重要な役割です。

#### Hospital Data

〒960-1295  
福島県福島市光が丘 1 番地  
TEL 024-547-1111(代)【担当/看護部】  
URL <https://www.fmu.ac.jp/byoin/>



#### Hospital Information

福島県内で唯一の特定機能病院であり、都道府県がん診療拠点病院や災害拠点病院をはじめとした多くの拠点病院として高度医療の提供を行う。東日本大震災以降は、福島県の復興を医療という側面から支える中心的病院として、県民の心と身体の健康を見守る使命を担う。

や市役所で災害対応をしている職員の姿でした。私たちが仕事を代行することで、彼らの心身の負担を軽減し、家族との関りや自分の生活復興に時間を費やすことができます。被災地の方々の救いになることは救急現場で活動することだけではないと痛感しました。

被災された方々が一番辛いはずなのに、私たちに「ありがとう」と感謝の言葉をかけて頂くと「もつと頑張らなくては」と活力がわいてきますね。今後も、災害拠点病院である当院の DMAT チームの一員として、メンバーと協力し合い様々な災害に対応できる体制づくりを強化していきたいと思えます。



坂本さんはフライトナースとしても活躍。苦難にある人の命と心を救うために、過酷な現場へも出動する

